



八脚門まで園路を延長。
 八脚門に車椅子で登れるように、門の南北にスロープを設計。
 高さ 30 cm程度。

この区間について、別ルートを追加することも含めバリアフリーを検討する。

ユニバーサルデザインに関わり、正殿への園路を追加。
 ルート・形状について要検討。

八脚門へ至る通路の検討
 ①当時、八脚門へ至った道
 ②整備後地下連絡通路から八脚門に移動する経路

工 事 名	京都大覚寺堂内庭園整備計画事業
施工機関名	西日本株式会社制作所内
図面の種類	計画図
縮 尺	1/1000
製図者名	西日本

政庁東門（八脚門）・塀復元について

（1）政庁東門（八脚門）・塀 設計（抜粋）

①政庁東門（八脚門）

桁行き総長 6,808 mm (23.00 尺) 1,924+2,960+1,924m (6.50+10.00+6.50 尺)

梁行き総長 4,292 mm (14.50 尺) 2,146m (7.25 尺等間)

柱高 296 mm、棟高約 4,800 mm、柱径 276 mm (9 寸 3 分)

板葺き・瓦棒、木棟、土壁

②基壇

乱石積み

東西 7,252 mm×南北 8,568 mm、東側高さ 296 mm

③塀

柱径 245 mm

高さ 2,370 mm

笠木横羽目板塀、柱間が長いところに束柱

④前回委員会（2/5）からの異動

- ・基壇の追加
- ・屋根板の厚み 上板 60→45 mm、下板 45→36 mm (若干薄くした)
- ・塀の柱間が長いところに束柱
- ・塀がさらに続くことを表現

（2）3月28日の復元検討委員会の意見

①政庁東門（八脚門）について

- ・屋根板が暴れて雨漏りするかもしれない。実施設計段階で維持管理もよく考えておくこと。
- ・20年程度で修理する覚悟が必要である。

②正殿跡の四阿について

- ・現案を認めない訳ではないが、門が立派で、正殿がみすぼらしくならないか心配とする意見もあった。
- ・この建物が古代のものでないことを明らかにするように、内部に正殿の模型を置いたり、壁にそのイラストを示すなどの情報提供が必要である。

(3) 実施設計にあたり整理しておくべき条件

①使用樹種の選定

○久留倍の出土品の樹種同定で判明している樹種（『久留倍遺跡5－科学分析・総括編』VII総括より）

・弥生時代中期後葉～古墳時代初頭：スギ（104点）・アカガシ亜属（73点）・イヌマキ（18点）・アスナロ属（16点）・シイ属（16点）・サカキ（12点）・クスノキ（11点）・クヌギ節（11点）・クリ（9点）・モミ属（8点）・コナラ節（7点）・イヌガヤ（6点）・マツ属（6点）・カヤ・ケヤキ・ヒノキ科・ヒノキ亜科・ツバキ属・サクラ属

※用途別（建築部材）：梯子－スギ・サカキ・ヒノキ亜科・マツ属・モミ属

板状製品－スギ・ハイノキ属・アスナロ属・アカガシ亜属・

クヌギ節・シイ属・ツブラジイ・マキ属・マツ属・モミ属

・古代：柱 SB90（タブノキ属・クリ）、SB91（アスナロ属）、SB410（コウヤマキ）
礎板 SB91（コウヤマキ）

※SB90（Ⅱ－②・③期）、SB91（Ⅱ－③期）、SB410（Ⅱ－②期）

○久留倍周辺の現在の植生（『久留倍官衙遺跡整備基本計画書』より）

シロモジ・クリ・ミズナラ・アカガシなどの広葉樹

モミ・アカマツ・スギ・ヒノキなどの針葉樹

②外観の仕上げについて

③門の躯体保護について

④床について

